



2011年1月

杉並リハビリテーション病院



SUGINAMI Rehabilitation Hospital

—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

1. 私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
1. 私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
1. 私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
1. 私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
1. 私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

1. 患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
2. 患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
3. 患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
4. 患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
5. 患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

杉並リハビリテーション病院になり四年、101全ベッドが回復期リハビリテーション病棟になりまして三回目のお正月を迎えるました。

回復期リハビリテーション病棟とは、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患や大転骨頭部骨折などの患者さまに対して、日常生活動作能力の向上などを目的にリハビリテーションを中心に行って、在宅復帰・社会復帰を支援するための病棟です。昨年一年間に433人(2010年12月15日時点予測)の患者さまが新たに入院され、毎日、リハビリテーションに取り組まれています。また、昨年4月からはリハビリ室での療法士との練習も365日休日なしとなりました。

今年も「愛し愛される病院」の理念の下、職員一同総力を挙げ、熱い思いで患者さまのリハビリテーションに取り組みます。患者さま、ご家族の皆様、そして、地域から信頼され魅力ある病院として更なる発展の年となるよう努めてまいります。

院長 門脇 親房

地域連携パスについて

当院の地域連携パスの取り組みについて

当院では、患者様支援のために、医療・保健・福祉関係機関との連携を図った地域連携パスを導入しております。地域連携パスとは、急性期病院から回復期リハビリテーション病院を経て早期に自宅に帰れるような診療計画を作成し、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いるものをいいます。診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者様に提示・説明することにより、患者様が安心して医療を受けることができるようになります。これにより、医療連携体制に基づく地域完結型医療を具体的に実現します。平成20年5月1日から、北多摩南部脳卒中地域連携パスを運用開始。現在では、当院で運用している連携パスは全部で5種類となります。（以下）

- ◆ 北多摩南部脳卒中地域連携パス（脳卒中）
- ◆ MSN／メトロポリタン・ストローク・ネットワーク（脳卒中）
- ◆ 多摩整形外科連携医療研究会（大腿骨頸部骨折）
- ◆ PRCF／警察病院頸部骨折パス（大腿骨頸部骨折）
- ◆ 荻窪病院（大腿骨頸部骨折）

運用スタートしたばかりの連携パスや、症例ケースがごくわずかのものもございます。当院といたしましては、出来る限り患者様・ご家族様の支援に連携パスが役立ってほしいものと考えております。

現在、地域連携パスは地域ごとに複数の種類のものが運用されています。今後、連携パスの共通化は、東京都だけでなく、全国へと拡大していくことを望まれています。地域の患者様がたまたま遠方の病院に入院したとしても、共通の連携パスが運用されることによって、患者様・ご家族様の利益にもつながっていきます。

今後とも、地域の患者様・ご家族様と病院職員が一緒に在宅復帰及び、社会復帰へのご支援をさせていただく所存でございます。

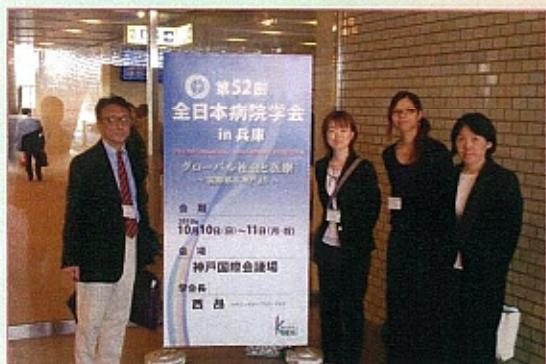
医療相談員 しばさき 柴崎 健 たけし

全日本病院学会

さる10月10日・11日全日本病院協会の『第52回全日本病院学会 in 兵庫』が神戸国際会議場で盛大に開催されました。神戸は古くは平清盛が平安時代の末期に大和田泊（現在の神戸港の一部）で中国との貿易を行い、明治維新後は海外への玄関口として栄えた地。今回の学会メインテーマは「グローバル社会と医療」、講演や演題は国を越えた技術交流・医療貢献にとどまらず、外国人雇用問題まで多岐に亘りました。

そんな中、今年は当院から2題の演題を発表。“グローバル”とまではいきませんが、当院の最重要課題項目である“地域連携・地域医療”をテーマにした演題「脳卒中地域連携パス運用における当院の現状と課題～切れ目のない医療・介護をめざして～」（演者：医療ソーシャルワーカー・丸山美菜子）がひとつ。もうひとつは「回復期リハビリテーション病院における栄養管理～経口摂取移行に向けた取り組み～」と題し、管理栄養士の五百木整子が発表しました。

いずれの演題発表も回復期リハビリテーション病院の抱える問題点や課題点を明らかにするものであり、益々地域連携を密にする必要性を再確認できた次第。平成23年、当院が取り組むべき内容がはっきり見えた有意義な学会となりました。



総務課 大山 徳郎

介護トピックス～手足のリハビリ～

<手のむくみ・足のむくみ>

麻痺側の手足がむくんでいる患者様をお見かけすることがあります。

運動を支配している神経が障害されると、自分で動かそうと思っても、思うように筋肉を動かすことが難しくなります。

通常は、筋肉の収縮がポンプの作用として働いて、血液の循環を促しますが、麻痺がある場合、この作用がうまく働くせず、むくことがあります。

車椅子に乗って、離床をしている間でも、手がだらんと膝の上におりていると、重力の影響も受け、むくんでしまいます。

3点の対処法をご紹介します。患者様のむくみの改善につながるように役立てていただければと思います。

<対処法>

①運動

手足の筋肉を収縮させることで血液の循環を促しましょう。手関節、足関節を回してみるのも、リンパの流れを良くしてむくみが改善されます。



②マッサージ

末梢から中枢部に向かってマッサージします。



上肢: 指→手→肘→肩

下肢: 足指→膝→股関節

③ポジショニング

車椅子や椅子に座っている間にも、机の上に手を乗せる。クッションなどで胸部の高さに保持する。



看護師 瀬長 三奈子

ノロウィルス

毎年11月頃から4月にかけて、ノロウィルスの感染を原因とする、嘔吐・下痢症が流行します。特に子供達が集団生活を送っている施設(保育園など)では、ヒトからヒトに感染し、爆発的に流行することがあります。潜伏期間は数時間～2日程度。症状の持続も1～2日と短期間ですが、症状が回復した後もウィルスは1週間程度体内に居続けます。

もしかかってしまった場合、特効薬はありません。症状の持続する期間は脱水にならないよう出来る限り水分の補給をすることが一番大切です。(場合によっては病院で点滴する)

効果的な予防法は「流水・石鹼による手洗い」です。帰宅時、食事前には家族の方全員が流水・石鹼による手洗いをしましょう。また、調理や配膳は十分に流水・石鹼で手をあらってから行ってください。貝類の内臓を含んだ生食は特にノロウィルス感染の原因となるので高齢者や乳幼児は避けるほうが無難です。

嘔吐物や下痢症には大量のノロウィルスが含まれます。処理する際はマスク・手袋をし、雑巾・タオル等で吐物・下痢便をしつかりふき取ってください。ふきとった雑巾・タオルはビニール袋に入れて密封し捨てます。その後、家庭用漂白剤(ハイター、ブリーチなど)を200倍程度薄めた

もので嘔吐物や下痢便のあった場所を広めに消毒してください。消毒剤は肌に触れると良くないので、手袋を着用してご使用ください。



感染対策委員会
薬剤師 平家 隆司

調理訓練



思ったより良くなきました。
(患者様)

ご本人の自信になつたのと、ご家庭での生活につながって良かったです。(セラピスト)



調理訓練では他にもカレーや肉じゃが、郷土料理など、ご本人と相談しながら行っています。



みそなす炒め



～当院の現況～

平成22年10月 平成22年11月 平成22年12月

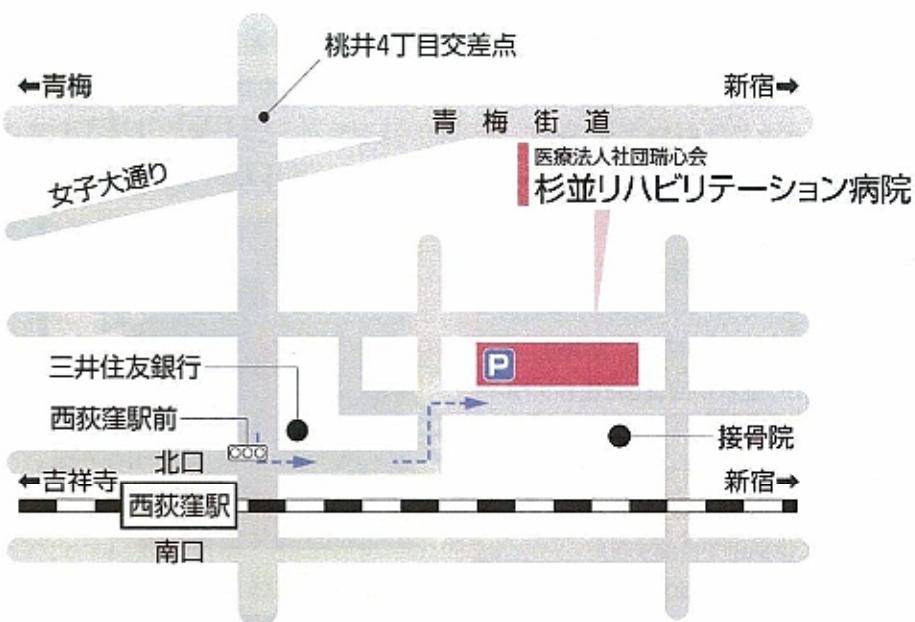
稼働率	96.2%	95.0%	97.0%
入院延べ患者数	3051人	2925人	3074人

在宅復帰率(直近3ヶ月:10~12月)	-----	80.3%
重症患者割合(直近6ヶ月:7~12月)	-----	43.7%
重症患者回復病棟改善割合(直近3ヶ月:10~12月)	-----	58.1%

* 重症患者…日常生活機能評価で10点以上の新規入院患者の割合

* 重症患者回復病棟改善…重症患者のうち3点以上の者が改善している割合

交通のご案内



病院概要

開院 /	昭和43年10月
理事長 /	中村 康彦
院長 /	門脇 親房
病床数 /	101床(4床室・個室)
診療科目 /	内科・リハビリテーション科
診療時間 /	毎週 月・火・水・木・金 9:00~12:30
発行責任者 /	門脇 親房
発行 /	杉並リハビリテーション病院 広報委員会

医療法人社団 瑞心会

杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5

TEL.03-3396-3181(代) FAX.03-3396-3186(代)

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>